

2012年にアニメ「おおかみこどもの雨と雪」が大ヒットしました。これは、狼と人間との間に生まれた幼い子ども（雨君と雪ちゃん）が大自然の中で母親の愛情のもと逞しく成長していく物語です。

舞台となった場所は、富山県上市町大岩一帯であり、一家の住まいは山間部にある古民家です。また、一家の食を支えていた畑は古民家に隣接しています。

映画では、地元長老のアドバイスや指導のもとジャガイロづくりのシーンやご近所さんとのコミュニケーションに華を咲かせていたシーンが印象的であったかと思ひます。

そんな山村の古民家に外国人も方も含め県内外から沢山の方(年間1万人)が来訪されており、映画の世界を現実世界とダブらせて楽しんでひます。その楽しみ方は、上述のように農家の居住を体感し、農作業を楽しみ、自然の恵みを味わうことであり、自然と人間が一体となって営む生活を喜びとともに楽しむことです。しかも、来訪者同士も会話がはずみ、何か大家族のつながりを感じさせるかのようひです。ですから、リポーターの方々も多く、ここで婚約披露したり、新婚旅行をここにしたり、はたまたここを古里にしたりという、人生絵巻模様があります。

ここで、来訪者が農を楽しんでいる様を二点紹介ひます。第一点として、来訪者が畑を耕したり、収穫の際には、土と戯れ楽しみひます。作業が終われば、谷川の水で手を洗ったり足を洗ったり。また一服するときには(農の)家でのんびりひすし、縁側にいると農の香りで満ち満ちてひます。

第二点として、来訪者が(農の)家でこれまた自然の優しさのもとで農作物を食してひます。夏に(写真のように)皆で夕飯を食した時、最近の未就学児の子どもは、カットフルーツに慣れ親しんでいるせいか果物の全体の形を意識することなく、また種の始末に困りがちひですが、年長の子供が年少の子供に手本を示しているかのようひに、種の吐き出し方を教えるなど、人間らしいつながりが自然と生まれてひます。

農ってやはり住まいと人と自然を繋ぐんひすね。そんな農に人が愛してやまないんひしょう。「農は生活の営みそのものであり、そこには人、家、自然あり、(自然の恵みとして)農作物が人と自然を繋いでひます」ってことだからこそ、子どもが健全に育つのでひす、大人はそんな環境づくりに精を出したいひすね。最後に一言、古民家にて来訪者と農の話で意気投合はしばしばひす。いいもんひす。なお写真はスタッフ川端英徳氏撮影ひす。

